

キリスト教学研究室紀要

第 4 号

—ティリッヒ特集(論文)—

巻頭言：キリスト教学研究室とティリッヒ —ティリッヒ歿後50年を記念して—

芦名 定道 (1)

ティリッヒとその思想的遺産 —生の現象学を中心に—

芦名 定道 (5)

ティリッヒとカント —道徳と宗教のあいだ—

鬼頭 葉子 (19)

前期P. ティリッヒの啓示論

平出 貴大 (35)

—論文—

聖書翻訳とヘブライ語原典——東方正教会を考える視点

手島 勲矢 (57)

テオトコスへの信仰とイコンの関係性—フロレンスキイ的アプローチ

ブラジミロブ イボウ(75)

H.G.ガダマーと宗教の接点 —伝記的事実を中心に—

岡田 勇督(87)

—研究ノート—

アウグスティヌス『神の国』における救済論

渡邊 蘭子 (99)

—書評—

程小娟、『God的汉译史—争论、接受与启示』

金 香花(119)

—研究動向—

学会報告：北米哲学的解釈学協会

(North American Society for Philosophical Hermeneutics: NASPH)

岡田 勇督(125)

あとがき

(133)

2016年3月

京都大学キリスト教学研究室

2015年度・第二演習の記録

<前期>

- 4月 9日：芦名定道「オリエンテーション」、「研究の基礎としての書評・サーベイ
書評：ハンス・キュンク『キリスト教思想の形成者たち——パウロからカ
ール・バルト』（新教出版社、2014年）。
- 5月14日：渡部和隆「内村鑑三における「形而上学」の概念」
金香花「『God的翻訳史』を読む」
- 5月28日：洪伊杓「明治キリスト者の神道理解の類型論の可能性——高橋五郎の神道理解
からの再考察——」
南裕貴子「フライターク伝道の神学における「教会」」
- 6月 4日：張旋「R・R・リューサーのエコ・フェミニズム神学における創造論」
岡田勇督「ガダマーとブルトマン再考——歴史的客観性に対する批判をも
とに」
- 6月11日：ブラジミロブ・イボウ「パヴェル神父のイコン論——何を想い起すのか？」
森川甫「ジャン・カルヴァンの『共観福音書註解』研究」
- 6月25日：張舒青「晩清反キリスト教運動の原因をめぐる考察」
長原尚子「シュペーターの再生論理解に向けて」
- 7月 2日：平出貴大「前期ティリッヒにおける啓示論——宗教哲学的な「啓示」理解」
橘川玲奈「プロテスタント・キリスト教の文脈化と正統性」
- 7月 9日：波勢邦生「賀川豊彦とヨハネ黙示論 その聖書解釈の方向性」
渡邊蘭子「アウグスティヌスにおける節制優位の思想」

<夏期・大学院生研究発表会>

- 8月28日・29日：日本基督教学会・学術大会（9月11日～12日）、日本宗教学会・
学術大会（9月4日～6日）における個人研究発表予定者による予行
演習。

<後期>

- 10月 1日：芦名定道「オリエンテーション」、「キリスト教学研究室とティリッヒ—
ティリッヒ歿後50年—」
- 10月15日：金香花「ハンデルにおける神の訳語하나님」
- 10月29日：張旋「現代中国におけるリューサーのエコ・フェミニズム神学研究」

- 南裕貴子「ヴァルター・フライターク「伝道の神学」における教会論」
- 1 1月 5日：谷塚巖「キルケゴールにおける「詩」の問題——「可能性」との関連から」
岡田勇督「ブルトマンにおける非神話論化の構造と解釈学」
- 1 1月 12日：ブラジミロブ・イボウ「パヴェル神父の思想における知識とイコンの関係
について」
森川甫「カルヴァン『共観福音書註解』と旧約聖書」
- 1 1月 19日：洪伊杓「東アジアにおけるラトゥーレット（K.S.Latourette）の認識と受容過
程一日・中・韓3国の比較を中心に」
- 1 1月 26日：長原尚子「Ph. J.シュペーナーの再生論について」
- 1 2月 3日：平出貴大「前期P. ティリッヒの啓示論」
橘川玲奈「カステリヨン『異端者を処罰すべからざるを論ず』」
- 1 2月 10日：渡邊蘭子「アウグスティヌスにおける未来的終末論の展開—『神の国』を
中心に一」
波勢邦生「賀川豊彦と神の国—その内容と可能性に関する一考—」
- 1 月 7日：岡田勇督「ガダマーとブルトマン——非神話論化、実存論的解釈を軸にし
ての比較——」
スティグ・リンドバーグ「Kagawa Literature Review」

<春期・大学院生研究発表会>

- 3月14日：日本基督教学会・近畿支部会（3月28日）における個人研究発表予定者
による予行演習。

あとがき

◆『キリスト教学研究室紀要』第4号をお届けいたします。京都大学キリスト教学専修（研究室）刊行の「研究室紀要」も、2013年度の創刊から、今回で第4号を迎えました。紀要第4号を無事に刊行することができたことについて、執筆者、そして編集担当者に心から感謝を申し上げます。

◆京都大学のキリスト教学研究室は、教員と大学院生を中心に構成された研究者の研究共同体として運営されているが、そこで取り組まれる研究テーマは多岐にわたっている。構成員が実際にどのような研究を行っているかは、本号に収録された「2015年度・第二演習の記録」にある通りである。それは本号に掲載の論文などにも反映されているが、本号の特徴は、「ティリッヒ特集」として3本のティリッヒに関わる研究論文が収められたことである。準備期間が十分でなかったこともあって、特集として収録された論文数は決して多くはない。しかし、現在のティリッヒ研究の広がり的一端は示し得たものと思われる。今後も、適宜「特集」を企画したいと考えている。

◆この「研究室紀要」は、キリスト教学研究室の研究内容を広く公開するとともに、所属の大学院生に論文などの執筆機会を提供することを目的としている。それは、学問世界においてすでに広く蔓延している成果主義という現実に対応するものであるが、近年、このことと共に目立つのが、研究者倫理（剽窃・盗用・二重発表・二重投稿などの不正行為の禁止）の問題である。キリスト教学研究に関連が深い二つの全国規模の学会、つまり、日本宗教学会と日本基督教学会では、倫理規定を制定することが現在検討中であり、大学レベルでは、研究者倫理についてすでに厳しい対応が求められている。こうした点を踏まえるならば、本紀要においても、査読体制を確立することが必要になるであろう。これについては、2016年度以降の検討課題となるが、当面は、大学院生の研究論文、研究ノート、書評に加え、教員（常勤と非常勤）による研究論文を掲載することによって、研究論集としての十分な水準が確保されるよう心がけたい。

◆この「あとがき」の場を借りて、最近のキリスト教研究室出身者の動向についてお知らせしたい。

鬼頭葉子氏：2015年4月より、長野工業高等専門学校（一般科）に赴任。

スティグ・リンドバーグ氏：2015年4月より、京都大学文学研究科（キリスト教学）に赴任。

今出敏彦氏：2016年4月に、宮崎産業経営大学より、八戸工業大学へ転勤。

◆本紀要は、研究室のホームページ、あるいは京都大学学術情報リポジトリにおける公開を中心としており、基本的には電子ジャーナルとして企画されている。一定部数の印刷製本も行われるが、それは必要最小限のものとなる。電子ジャーナルとすることによって、キリスト教学研究室の研究活動が研究室外の方々に広く知っていただけるならば、幸いである。

2016年3月 キリスト教学専修・教授 芦名定道

The Annual Report on Christian Studies

IV CONTENTS

--Feature Articles--

Foreword: Christian Studies and Paul Tillich:

Commemorating the 50th anniversary of his death.	ASHINA Sadamichi (1)
Paul Tillich and His Legacy	ASHINA Sadamichi(5)
Tillich and Kant: Between Morality and Religion	KITO Yoko (19)
Revelation in the Early Paul Tillich's Thought	HIRAIDE Takahiro (35)

--Articles--

Biblical Translations and Hebrew Original Text:

A Perspective to the Orthodox Eastern Church	TESHIMA Isaiah (Izaya) (57)
The connectedness of icons to the cult of the Theotokos:	
A Florenskian approach	IVO Vladimirov (75)
Gadamer and Religion: From a Biographical Perspective.	OKADA Yusuke (87)

--Note--

The Soteriology in Augustine's <i>De Civitate Dei</i>	WATANABE Ranko (99)
---	---------------------

--Book Review--

Cheng, Xiaojuan:

"A History of Chinese Translation of God: Controversy, Reception and Inspiration"	JIN Xianghua (119)
---	--------------------

--Research Trend--

Conference Report: North American Society for Philosophical Hermeneutics (NAPSH)	
	OKADA Yusuke (125)

Afterword	(133)
-----------	-------

March, 2016

Faculty of Letters, Kyoto University, Department of Christian Studies

Kyoto Japan